



似顔絵師  
paintshop BELINDA  
遠藤亜祐美さん  
下関市出身

Q この職業を選んだの？

物心がついた時から、絵を描くことが好きでした。3歳の頃からお絵描き教室に通い始め、オイルクレヨンや水彩画、色染めなどを学び、高校と短期大学では、専門的に日本刺しゅうや空間デザイン、織物を学びました。いろいろな体験をしましたが、結局、似顔絵を描くことが、私の中心に根強く残っていました。前職で、似顔絵付きの座席表を作ったり、退職者の方に似顔絵をプレゼントするうちに、私の絵が人目に触れ始めました。口コミが次々と仕事を呼び、気が付けば、似顔絵が私の職業になっていました。

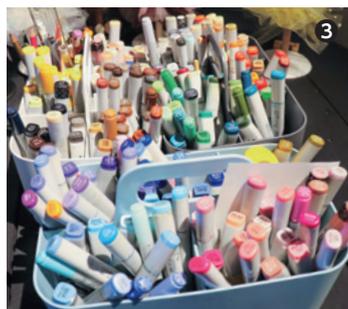
Q 仕事をしているの？

写真をもとに、結婚式のウェルカム・ボードや家族絵、アイコン、遺影などを描きます。私が似顔絵を描くときは、黒い髪でも少しずつ色を足していけます。線の太さに変化をつけ、画材も選びます。顔つきや鼻の形などの特徴をつかみながら、お客さまのイメージを受け取って具現化します。全く違うようにも描けませんし、お渡しした作品がお客さまの大事なモノになるという緊張感があります。人間だからこそできる仕事かなと思います。一枚一枚に想いを込めて、オーダーメイドで作品を描いています。

# 仕事図鑑



このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。



①ハンドメイドの作家作品が集まるアトリエを運営する傍ら似顔絵を描きます。②3,000人以上も描いた絵の一つ。③仕事道具。

Q どんなときにやりがいを感じるの？

おじいちゃんやんが亡くなり、悲しんで寂しがっていたおばあちゃんに元気を出してもらったために、仲むつまじい二人の似顔絵を描いてほしいという依頼が家族からありました。想いを込めて描いた似顔絵を見て、おばあちゃんやんは、泣いて喜んでくれたそうです。お客さまから、似顔絵を受け取った後のエピソードを聞いた時は、すごくうれいんです。

★ 似顔絵師を目指す君へ  
メッセージ

私が子どもの頃は「絵を描くことが仕事になるのかな？」と不安もありました。今、デジタル納品が多い中、私もデザインのソフトを利用して描けることと「デザインができること」は違います。企業で求められるために、うまく両方を組み合わせることもいいと思いますよ。  
取材協力 paintshop BELINDA (☎292-0322)